

2018年2月8日

# 決算説明資料

2018年3月期  
第3四半期



代表取締役社長 上田 富三



東証一部上場  
Listed Company  
3837

「2018年3月期 第3四半期 決算」の 補足説明資料です。  
どうぞ、ご覧ください。

## 2018年3月期 第3四半期決算概要

### 2018年3月期 戦略と取組み

<ご参考> 当社のソリューション・サービス

2

本日は、  
ご覧の「3項目」について、  
ご説明いたします。

まずは、  
「2018年3月期 第3四半期 決算概要」から、  
ご説明いたします。

**1** 売上高：80.4億円 (△5.9%) 営業利益：6.4億円 (△6.0%)

- ・ 売上・利益ともに、計画通りの進捗
- ・ IoTシステム事業 : 先進EV、コンサルティング等 順調に拡大
- ・ 社会システム事業 : 前期・エネルギー の反動減
- ・ セキュリティソリューション : 「Lynx SECURE」実績増加

**2** 通期利益進捗率 : 81%**3** 新・中期経営計画 : 策定中

- ・ 中期経営計画 (～2019/3) : 1年前倒し達成見込み
- ・ **新**中期経営計画 (～2021/3) : 策定中

第3四半期の 全体サマリーです。

売上高は「80億45百万円」、  
営業利益は「6億49百万円」となりました。

前期に エネルギー自由化関連が ピークを迎えた ことにより  
減収減益となりましたが、通期業績は、計画通りに 進捗しております。  
IoTシステム事業での、  
先進EVや、セキュリティ・コンサルティング 等が  
順調に 進んでおります。

通期計画では 営業利益の進捗率が「80%超」と、  
順調に 推移しております。

また、  
中期経営計画は、1年前倒しで 達成見込みのため、  
新たな「中期経営計画」を策定中です。

◆第3四半期 : 計画通り推移

◆原価率改善 : 売上総利益率 0.7ポイント上昇

(単位:百万円)	2017/3期 3Q		2018/3期 3Q		前年同期比		
	実績	売上比%	実績	売上比%	増減額	変動P	増減率%
売上高	8,547	100.0	8,045	100.0	△502	-	△ 5.9
売上総利益	1,955	22.9	1,897	23.6	△ 58	+0.7	△ 3.0
販売管理費	1,265	14.8	1,248	15.5	△ 16	+0.7	△ 1.3
営業利益	690	8.1	649	8.1	△ 41	△0.1	△ 6.0
経常利益	695	8.1	663	8.2	△ 31	+0.1	△ 4.5
四半期純利益	477	5.6	452	5.6	△ 25	+0.1	△ 5.4
E P S ( 円 )	53.3	-	49.9	-	△ 3.3	-	△ 6.3

4

第3四半期の損益状況です。

前期に エネルギー 自由化関連が ピークを 迎えたことから、「社会システム事業」は減収となりました。

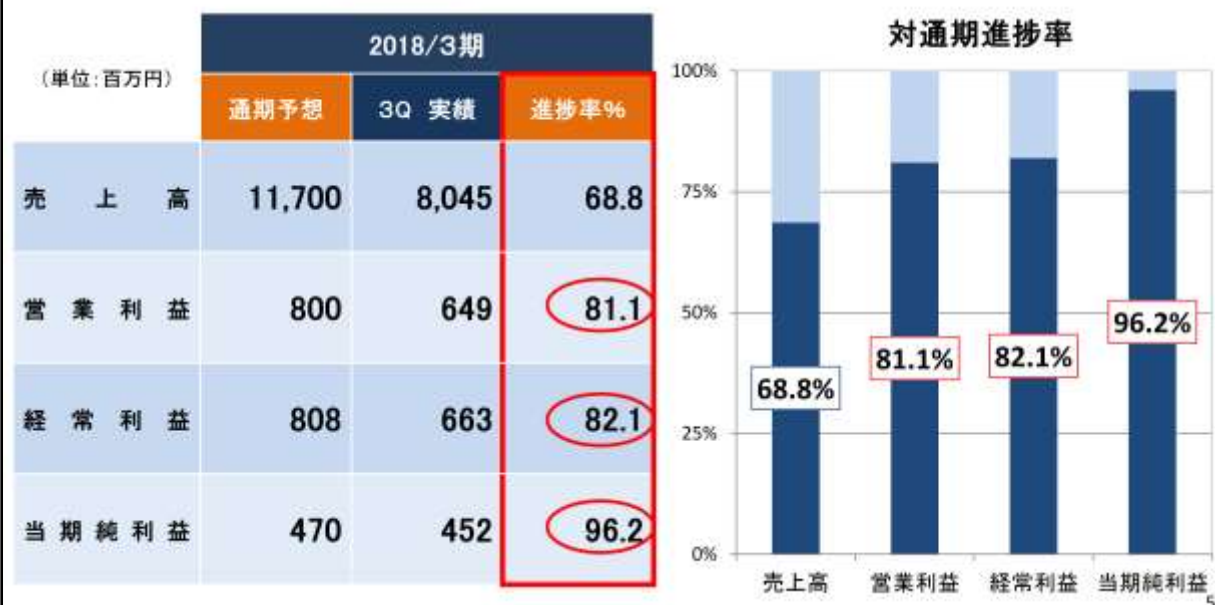
一方、「IoTシステム事業」では、セキュリティ関連や、当社独自のスマート・ソリューション関連が堅調に 推移しました。

「売上高」は、「5.9%」減の「80億45百万円」となりました。

収益性が向上した結果、「売上総利益率」は、「0.7ポイント」向上しました。

「営業利益」は、売上高の減少や、セキュリティへの 研究開発 等により、「6.0%」減の「6億49百万円」となりました。

- ◆対通期予想 : 計画通り推移
- ◆利益進捗率 : 80%超過
- ◆受注残高 : 高水準を維持



通期業績予想の、進捗状況 です。  
概ね、計画通りに 推移して おります。

特に「 営業利益 」 「 経常利益 」 「 当期純利益 」 の、  
進捗率は いずれも、「 80% 」を、超えております。

第3四半期末の 受注残高も、  
高水準を 維持しております。



- ◆社会システム事業：・通信分野 : 5Gで拡大
- ・ビジネス分野 : 前期に「エネルギー関連」ピーク
- ・ファイナンシャル分野 : 戦略的シフト
- ◆IoTシステム事業 : ・ソリューション分野 : 独自ソリューションで拡大

(単位:百万円)	2017/3期 3Q		2018/3期 3Q		前年同期比	
	金額	売上比%	金額	売上比%	増減額	増減率%
社会システム事業	7,190	84.1	6,427	79.9	△763	△10.6
ビジネス	4,288	50.1	4,028	50.0	△259	△6.0
通信	151	1.8	242	3.0	90	59.8
制御	1,434	16.8	1,243	15.5	△191	△13.3
ファイナンシャル	1,316	15.4	913	11.4	△402	△30.6
IoTシステム事業	1,356	15.9	1,617	20.1	261	19.2
組込み	1,035	12.1	1,118	13.9	83	8.0
スマート・ソリューション	320	3.8	498	6.2	177	55.4
売上高合計	8,547	100.0	8,045	100.0	△502	△5.8

6

次に、セグメント別の「売上高」について、ご説明いたします。

- ・「社会システム事業」は、  
前期に電力・ガスのエネルギー自由化関連がピークとなったことから、  
ビジネス、制御分野は減少しました。  
通信分野は、「5G」の進展に伴い、増加しました。  
ファイナンシャル分野は、地銀向けの戦略的シフトにより減少しました。

結果、社会システム事業の売上高は「10.6%」減の「64億27百万円」となりました。  
当初計画通りに推移しました。

- ・「IoTシステム事業」は、  
セキュリティ関連、IoT関連、  
当社独自のスマート・ソリューション等が堅調に推移し、  
「19.2%」増の、  
「16億17百万円」となりました。

受注状況

■ ビジネス	● ガス関連、旅行関連、メディカル関連が堅調
	● 電力自由化関連は、前期にピークを迎えたため減少
■ 通 信	● 5G(次世代通信)の進展を見据え、既存対応領域の強化
■ 制 御	● 電力、道路・交通等が堅調
	● 「宇宙システム領域」の拡大策推進
■ ファイナンシャル	● 信販向けクレジット・カード関連が堅調
	● 地銀向け等は、戦略的シフトにより減少



次に、社会システム事業は、

- ・ビジネス分野では、「ガス」、「旅行」、「メディカル」等が 堅調に 推移しました。
- ・通信分野は、「5G」の 本格的な進展に伴い、堅調に推移しました。
- ・制御分野は、「電力」、「防災」等が、堅調に 推移し、新たに参画した「宇宙関連」の 体制拡大に 取組みました。
- ・ファイナンシャル分野では、「信販向けクレジット・カード関連」が、堅調に 推移しております。

結果、売上高は、

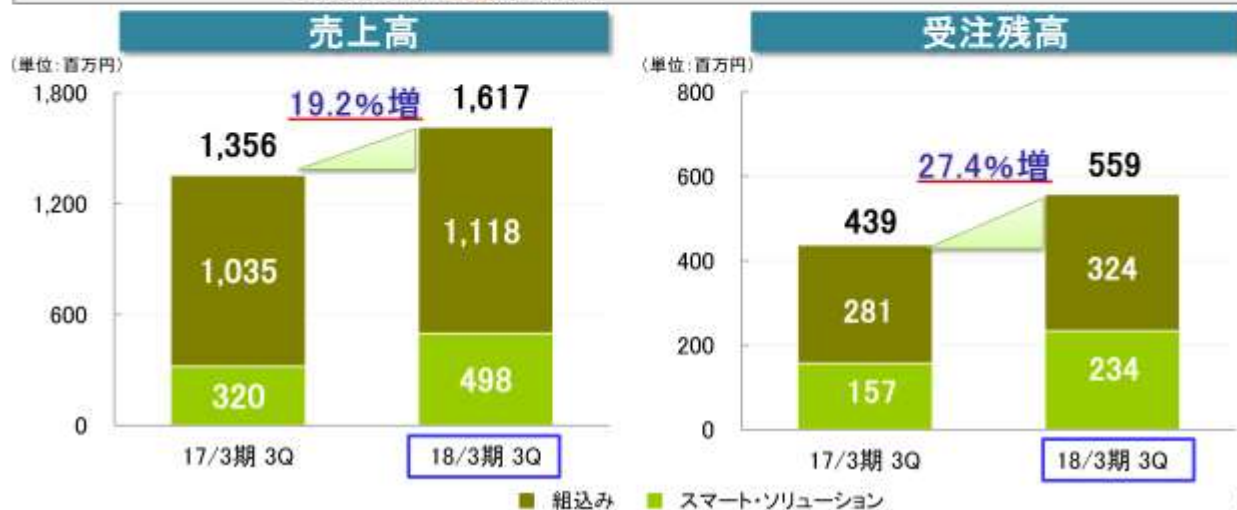
「10.6%減」の、「64億27百万円」となりました。

受注残高は、

「7.7%増」の、「18億76百万円」となりました。

## 受注状況

- 組込み
  - 次世代自動車（先進EV、自動運転）関連の体制拡大に注力
  - メディカル（医療・介護機器）関連が堅調
  - オフィス機器（複合機）は減少
- スマート・ソリューション
  - セキュリティ・コンサルティング関連が拡大  
LynxSECURE ・公共ネットワーク向けの検証継続  
・関連ソリューションの販売
  - 地理情報（GIS）が堅調



IoTシステム事業は、

- ・組込み分野では、  
「先進EVや自動運転等の次世代自動車関連」が拡大し、  
「医療、介護機器の、メディカル関連」が堅調に推移しました。  
「オフィス機器（複合機）」は減少となりました。
- ・スマート・ソリューション分野では、  
「セキュリティ・コンサルティング」や  
「位置情報（GIS）」が拡大しました。  
「LynxSECURE」の拡充も積極的に progressing しております。

以上の結果、

売上高は、

「19.2%増」の「16億17百万円」となりました。

受注残高は、

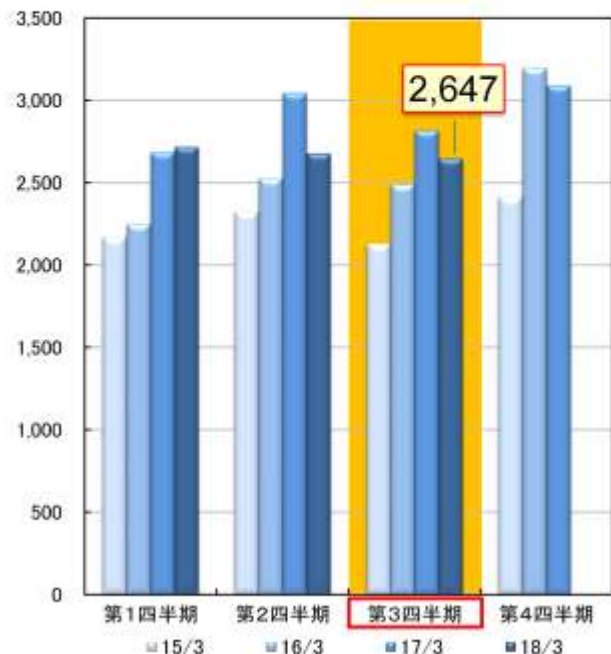
「27.4%増」の、「5億59百万円」となりました。



## 売上高

● 計画通りに推移

(単位:百万円)



## 受注残高

● 堅調に推移

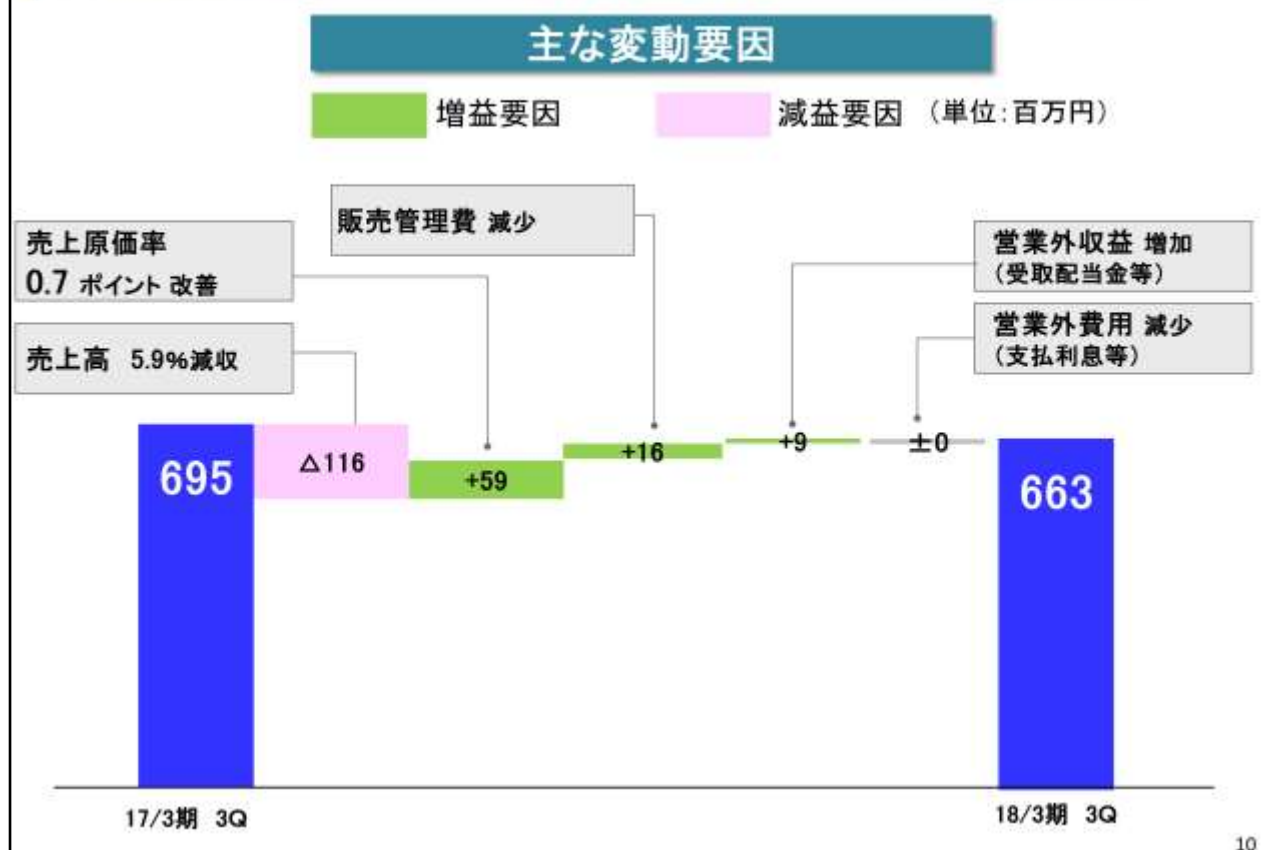
(単位:百万円)



四半期毎の「売上高」と「受注残高」は、  
ご覧の通りです。

売上高は、  
エネルギー自由化関連の、減少により  
前期を下回っておりますが、概ね計画通りに推移しております。

受注残高は、  
堅調に推移しており、「24億円」となりました。



経常利益は、  
「 6億63百万円 」となりました。

主な「 増益・要因 」としては、  
原価率の改善や、販売管理費が 減少した ことによります。

一方、主な「 減益・要因 」として、  
売上高が、「 5.9% の減収 」となったことから、  
「 1億16百万円 」の 減益と となりました。

# 貸借対照表(前期末比較)

## 資産

● 総資産: 54億円

(単位: 百万円)



## 負債・純資産

● 自己資本比率: 60.9% (7.1%上昇)

(単位: 百万円)



貸借対照表は、ご覧の通りです。

総資産は、「 54億円 」と なりました。

自己資本比率は「 60.9% 」と、  
「 7.1% 上昇 」し、  
健全な、財務内容と なって おります。

## 次世代社会システム領域の拡大

- 社会インフラの更新需要の取込み
- ベースロードの骨太化 ⇒ エネルギー(電力・ガス)領域、  
次世代自動車(先進EV・自動運転) 等の対応強化

## 新たな価値の創造・提供に挑戦

- セキュリティ・ソリューション「LynxSECURE」シリーズの展開
  - 全国展開の「植物工場」、「介護システム」等での実証実験スタート
  - ネットワークの脆弱性対策ソリューションの開発に着手
- AI領域への取組み
  - 「エヌビディア:画像解析」や「Deep Learning」等の先進的研究
- 「IoT時代のセキュリティ・フォーラム2017」 3年連続開催

## 競争優位の発揮

- 「超上流領域」「セキュリティ」「IoT」等をキーワードとした人材育成の強化
- グローバル開発体制の強化 ( 中国2社、ベトナム3社 )
- 産学連携・共同研究 ⇒ 「慶應義塾大学」「名古屋工業大学」

重点施策の進捗状況をご説明いたします。

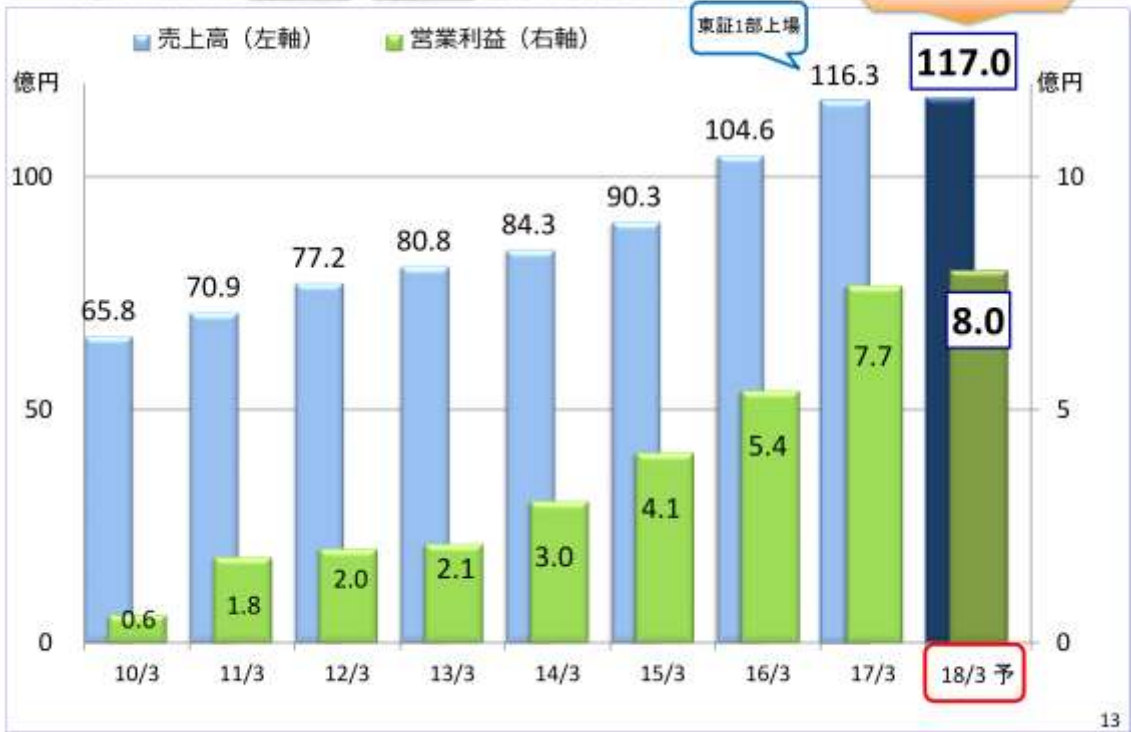
「次世代社会システム領域の拡大」では、  
・電力・ガス等のエネルギー関連でベースロード化を推進すると共に、  
次世代自動車(先進EV、自動運転)に、注力しました。

「新たな価値の創造・提供に挑戦」では、  
・セキュリティ・ソリューション「LynxSECURE」の展開が進んでおります。  
植物工場や、介護システムで、実証検証を進めています。

・「AI領域」では、  
「エヌビディア社の画像解析」や、「Deep Learning」等の  
先進的研究を推進しております。

「競争優位の発揮」では、  
・急増するセキュリティ領域のニーズを見据え、事業体制の強化に繋がる人材育成に継続して取り組んでおります。  
・次に、現在中国2社、ベトナム3社のグローバル開発体制の、  
さらなる強化に取り組んでおります。  
・また、「産学連携」として、慶應義塾大学との「GIS・IoT」、  
名古屋工業大学との「セキュリティ」に関する  
共同研究を行っております。

## ◆ 8期連続の増収・増益を目指す

過去最高  
売上・利益へ

過去からの業績推移です。  
2010年から、  
「8期連続」の増収・増益を  
目指しております。

今期は開発スペースの増床を行うと共に、  
当社独自のスマート・ソリューションの  
創造、提供を通じて  
持続的な成長を目指して参ります。



**8期連続の増収・増益**    **EPS: 52円**    **ROE: 14%**

(単位:百万円)	2017/3期		2018/3期		前期比		
	実績	売上比%	予想	売上比%	増減額	変動P	増減率%
売上高	11,634	100.0	11,700	100.0	66	-	0.6
社会システム事業	9,657	83.0	9,671	82.6	14	-	0.1
IoTシステム事業	1,976	17.0	2,028	17.3	52	-	2.6
売上総利益	2,462	21.2	2,553	21.8	91	+0.6	3.6
営業利益	767	6.6	800	6.8	33	+0.2	4.2
経常利益	777	6.7	808	6.9	31	+0.2	3.9
当期純利益	531	4.6	470	4.0	△61	△0.6	△11.6
EPS (円)	59.1	-	52.3	-	△6.8	-	△11.5
ROE (%)	18.8	-	14.0	-	-	△4.8	-

14

「2018年3月期」の

「通期業績見通し」に変更はありません。

ICT需要は底堅く、計画通りの水準を見込んでおります。

売上高は「117億円」、

営業利益は「8億円」と、

「最高・売上高」と、「最高・営業利益」の更新を目指します。

当期純利益は、前期の、税効果会計の影響により

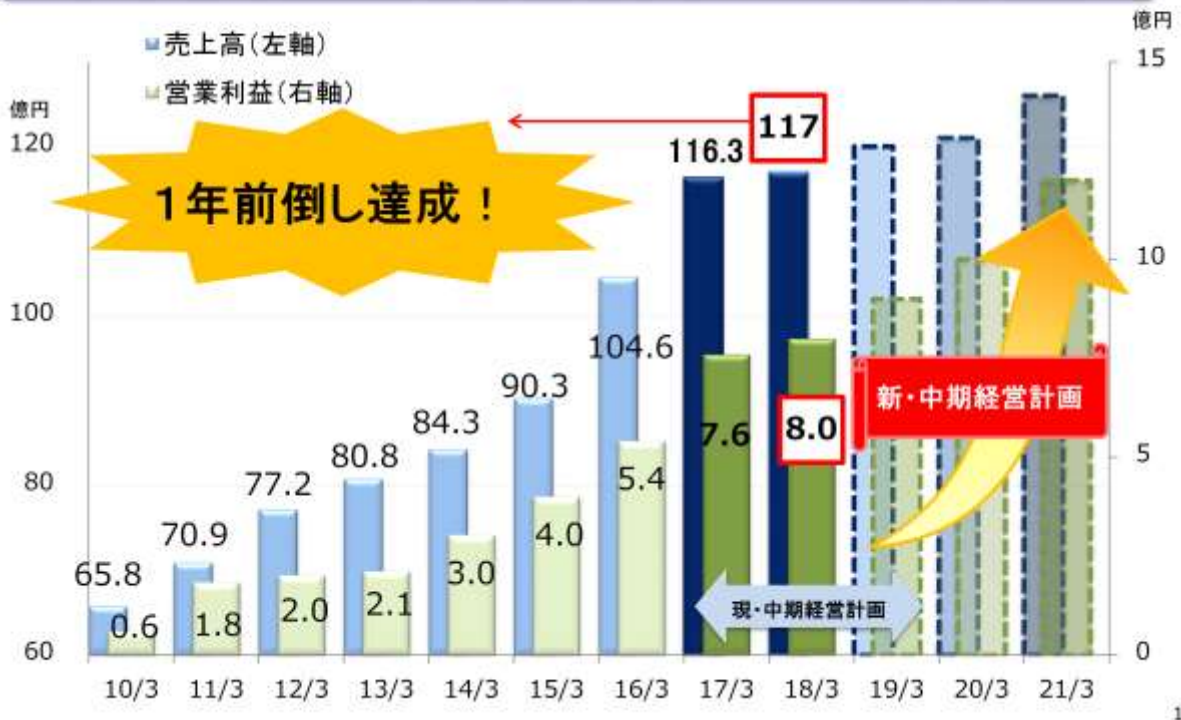
「4億70百万円」となる見込みです。

引き続き、社会インフラ関連の需要を

しっかりと取り込み、

IoTシステム事業での、ソリューション提供を通じて  
計画の達成に取り組んでまいります。

2020年以降の持続的な成長 新中計を今春発表



2020年の 東京オリンピックを 契機として  
日本の 社会インフラは、次世代型へと 移行すると 共に、  
サイバー攻撃の 脅威が 高まる中  
「安心・安全」な、「IoTシステム」の、普及が 望まれています。

この様な 環境を 背景に、  
「前期 4月」より「中期経営計画 Vision2020」が  
スタート しましたが「1年 前倒し」で、達成する見込みです

このため当社は、現在  
「次期・中期経営計画」の 策定を 進めております。

この春を 目途に、  
発表 できるよう 準備しております。

## ◆ 配当方針

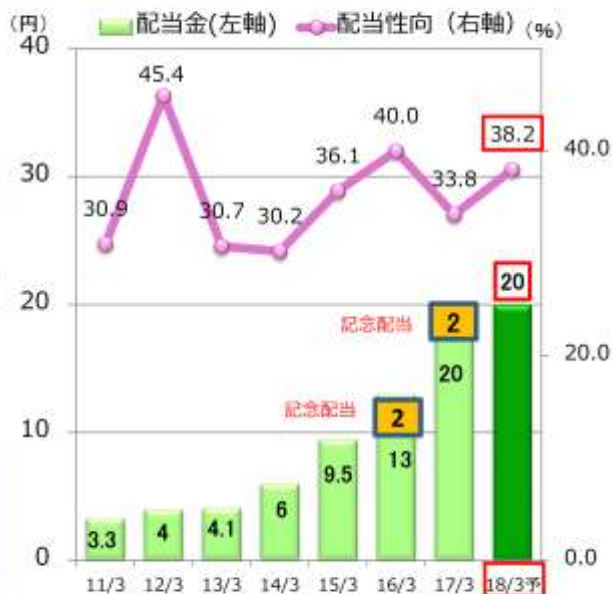
- 配当性向 **33%**以上
- 配当計画 **年2回**(中間、期末)

## ◆ 配当予想

(円)	中間	期末	合計
16/3 実績	3.5	9.5(※1)	13
17/3 実績	9(※2)	11	20
18/3 予想	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>20</b>

※1) 16/3 期末配当には、東京証券取引所第2部上場記念配当2円を含む。  
 ※2) 17/3 中間配当には、東京証券取引所第1部上場記念配当2円を含む。  
 2016年10月1日付、株式分割1:2を実施。分割を考慮した配当金を表記

## ■ 1株当たり配当金・配当性向



注1. 2016年10月1日付、1株につき2株の割合で株式分割実施。  
 2014年1月1日付、1株につき3株の割合で株式分割実施。  
 2. 分割前の1株当たりのデータは、株式分割を考慮し適及修正し、記載。

配当性向は、「33%以上」、  
 株主配当は、「 中間 ・ 期末の 年2回 」と  
 しております。

今期は、  
 「 上期は、 10円 」の 配当を 実施し、  
 「 下期は、 10円 」の 配当を 予定しております。

配当性向は、「 38.2% 」の 見込みです。

## 対象株主&時期

- 毎年9月30日、3月31日の株主様（年2回）
  - 200株以上4,000株未満：12月、6月に優待品を発送予定
  - 4,000株以上：11月、5月にカタログを発送予定

## 優待内容

### ■ 200株以上4,000株未満

「緑の募金」付きQUOカードを贈呈

- 200株以上 1,000株未満 500円相当
- 1,000株以上 2,000株未満 1,000円相当
- 2,000株以上 4,000株未満 1,500円相当

### ● 保有期間特典

1年以上で QUOカード1枚（500円相当）を  
年間 2枚 追加贈呈

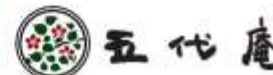


### ■ 4,000株以上

- QUOカード(3,000円相当) 又は
- 「紀州梅ギフト」から  
選べる株主優待カタログ を贈呈



和歌山県 紀州  
株式会社 東農園



注：写真はイメージで実際の商品と異なる場合があります。

「株主還元」として  
「配当」に加え、

「保有株数」に応じた「優待制度」を設けており、  
「梅ギフト」や「クオカード」を

年2回、  
贈呈させていただきます。

2018年3月期 第3四半期決算概要

2018年3月期 戦略と取組み

<ご参考> 当社のソリューション・サービス

18

次に「2018年3月期の戦略と取組み」の  
進捗を、  
ご説明いたします。



## 次世代社会システム領域の拡大

堅調な需要

- ベースロードの骨太化と先進対応領域への参入
- IoT化が進む製造業・次世代EV自動車への対応拡充



取り込み！

## 新たな価値の創造・提供に挑戦

LynxSECURE

- 技術・経験・ノウハウを融合し新たな価値(ソリューション)の創造
- 「IoT」「AI」「セキュリティ」分野におけるアライアンス戦略の推進

## 競争優位の発揮

- 大学・外部機構・団体との連携、共同研究開発の促進
- プロフェッショナル人材の育成と、マネジメント力強化による高品質・収益性の追求
- 業務プロセス改善とICT化の推進による開発環境基盤の整備と生産性の向上



セキュリティ関連R&amp;D、中途採用、社内教育・資格取得の推進

2018年3月期の、重点施策をご説明いたします。

「次世代社会システム領域の拡大」では、

- ・ベースロードの骨太化と、先進対応領域への参入を図っております。
- ・また、IoT化が進む、「製造業・次世代EV自動車」の拡充も、推進してまいります。

「堅調な受注残高」を、着実に対応し、新たな領域での受注を図ります。

「新たな価値の創造・提供に挑戦」では、

- ・「IoT」、「AI」、「セキュリティ」における、「アライアンス戦略」や、「LynxSECURE関連」の拡充を推進します。

「競争優位の発揮」では、

- ・大学等との、「共同研究」を推進してまいります。
- ・プロフェッショナル人材の育成と、マネジメント力の強化による高品質・収益性の追求に加え、業務プロセスの改善を図り「生産性の向上」に努めます。
- ・また、IoT・セキュリティ関連の「研究開発」も積極的に行ってまいります。

各国のマスコミでトップニュース（2017年5月13日～）



- ランサムウェアが猛威
- 同時無差別サイバー攻撃
- 世界150カ国以上が被害
- ターゲットは**公共施設・病院・工場・銀行・企業、他**



## 事業や業種を超えた新サービス

スマートファクトリー

データ構造

通信規格



脅威

- ◆ サイバー攻撃リスク 増加！
- ◆ 影響範囲拡大への恐怖！

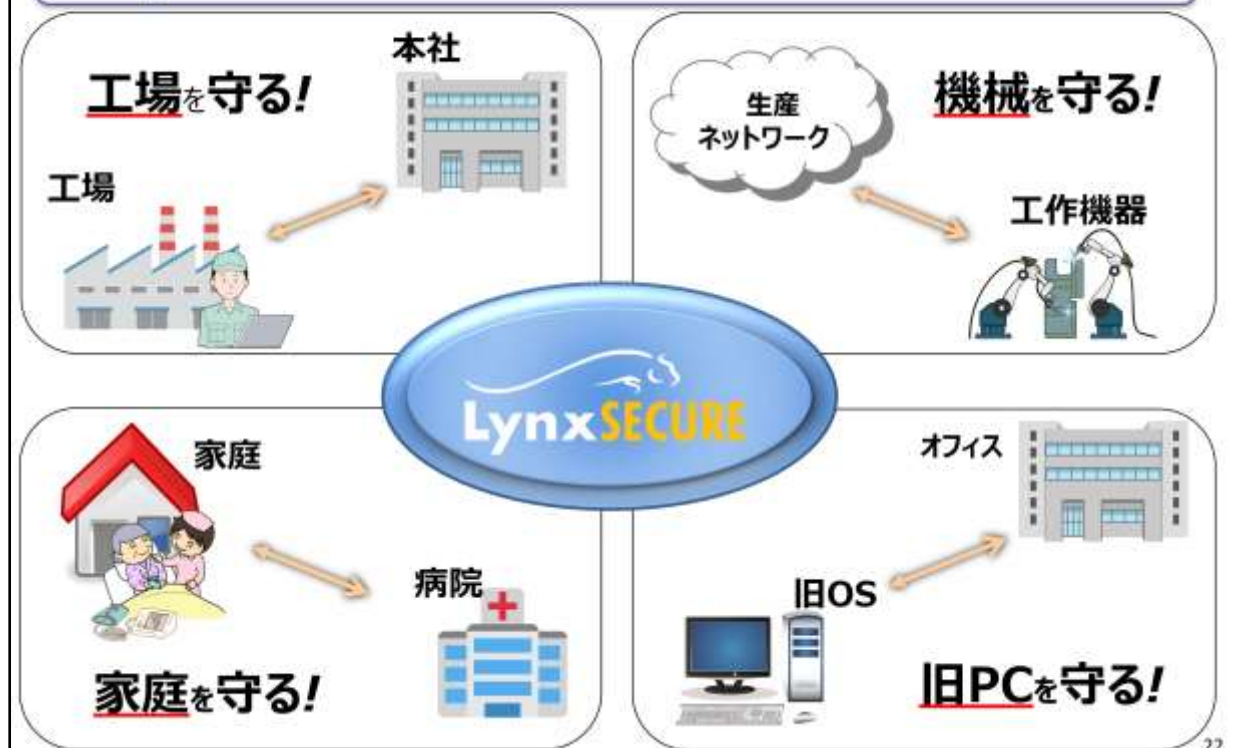
21

産業界では、「IoT」を活用した  
ビジネスを 進化 させようと しております。

しかし、旧来の、  
セキュリティが 考慮されていない  
「機器」や、「デバイス」が、  
インターネットに 繋がれる ことで  
「サイバー攻撃の 危険性」が 高まり、

「IoT の 進化」に対する 脅威と なっております。

LynxSECURE活用！「100以上の適用パターン」



そこで、当社は、  
「IoT時代のセキュリティ対策」として

米国で多くの実績を有する  
「LynxSECURE」を活用した、  
セキュリティ・ソリューションの提供を推進しています。

「安心・安全に繋ぐ」をコンセプトに、  
「工場」  
「機械」  
「家庭」  
「旧OS」を  
「守る」ソリューションの  
開発・提供に注力しています。



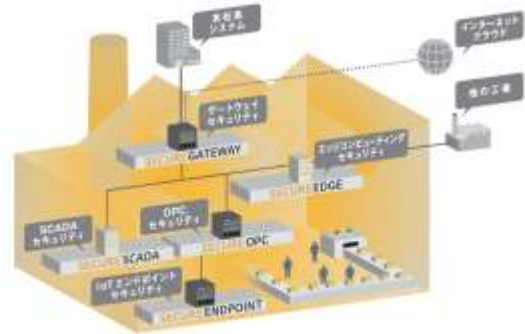
SECURE FACTORY (セキュア・ファクトリー)

IoT  
工場向け



製造業のIoTをまるごと守る  
「隔離」と「遮断」で、  
工場は強くなる！

- ① サイバー攻撃を許さない
- ② 安全なデータ通信
- ③ システム・ダウンを防ぐ
- ④ 内部感染を許さない



2017年3月30日 日経産業新聞 広告掲載

23

その一例として、  
「工場を守るソリューション」として、  
「昨年4月」より提供を開始した  
IoT工場向けのセキュリティ・ソリューション  
「セキュア・ファクトリー」です。

IoT化された工場では、  
システムの稼働停止に繋がる  
サイバー攻撃や、セキュリティへの対策は、重要な経営課題です。

LynxSECUREをベースに、  
工場の制御システムに求められる  
「サイバー攻撃を許さない」  
「安全なデータ通信」  
「システム・ダウンを防ぐ」  
「内部感染を許さない」を実現し、

工場内のあらゆるIoT機器を  
「隔離」と「遮断」でまるごと守るソリューションです。



**LynxSECURE**で、「プライバシーを守る!」



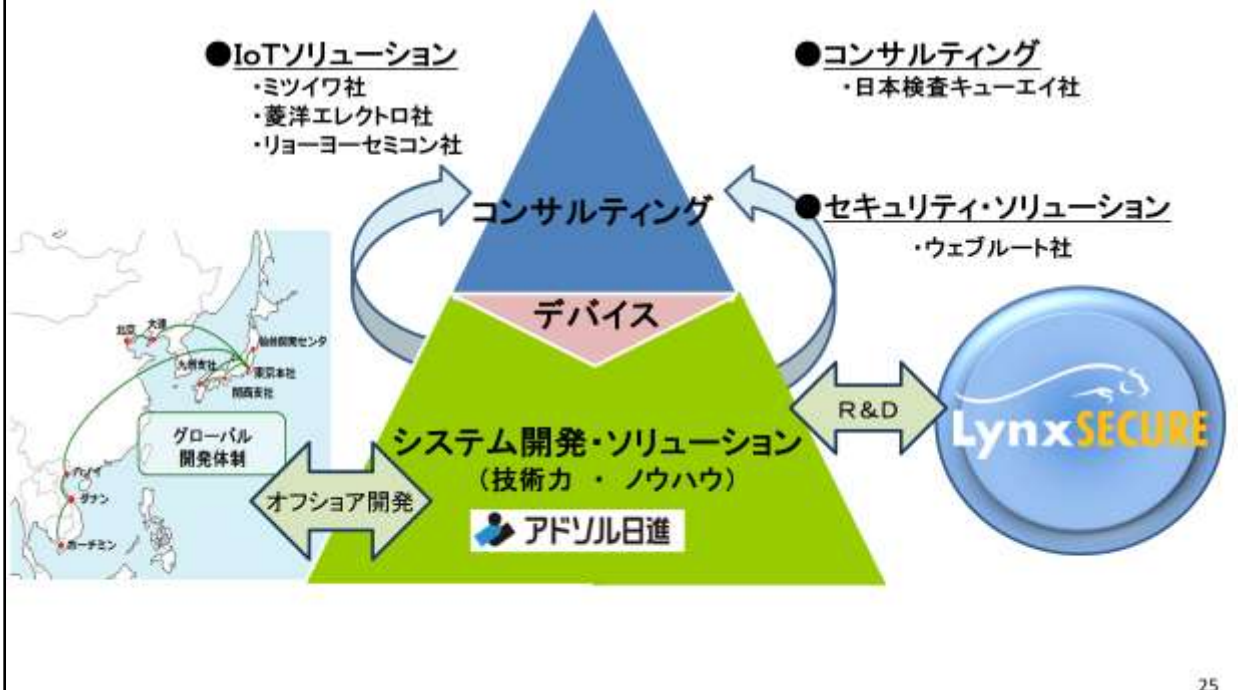
24

また、  
「ホームIoT・セキュリティ」にも取組んでおります。

「ホームIoT」では、  
あらゆる家電製品が  
インターネットに繋がれますが、  
同時に、  
サイバー攻撃の危険性が高まります。

そこで、当社は、  
「ホームIoTセキュリティ領域」においても  
LynxSECUREを  
活用したソリューション提供を進めております。

## ■ アライアンス戦略 ( 上流工程 ・ 高付加価値 )



25

市場が 拡大する 「 IoT分野 」において、  
 「 革新的な セキュリティ・ソリューション : LynxSECURE 」と、  
 当社が 長年培った  
 「 技術力 」、「 ノウハウ 」との 融合により、  
 IoT市場における、ニーズを 取り込んで まいります。

また、  
 当社の 開発力と、セキュリティ ・ ノウハウ をベースに、  
 コンサルティングの 上流工程から 参画し、  
 高付加価値で、収益性の 高い ソリューションの  
 提供を 目指します。

そこで、  
 コンサルティングや、ソリューションの領域で  
 高度な 専門性を有する 企業との  
 アライアンス戦略を 積極的に 推進して おります。

## サイバー攻撃の産学共同研究「つるまいプロジェクト」に参画

**名古屋工業大学大学院**は、任意団体**VEC (Virtual Engineering Community)**と連携し、工場、プラント等の制御システムを標的にしたサイバー攻撃の防御技術及び制御製品のセキュア化技術に関する研究として、2017年4月より共同研究「つるまいプロジェクト」を開始

当社は、同プロジェクトに参画し、VECに加盟



「第9回 VEC制御システムセキュリティ対策カンファレンス」にて講演

## プロジェクト参加企業

- ・アドソル日進株式会社
- ・BSIグループジャパン株式会社
- ・株式会社ICS研究所
- ・株式会社MHPSコントロールシステムズ
- ・NTTコミュニケーションズ株式会社
- ・アズビル株式会社
- ・アズビルセキュリティフライデー株式会社
- ・株式会社カスペルスキー
- ・シュナイダーエレクトリック株式会社
- ・株式会社立花エレテック
- ・トレンドマイクロ株式会社
- ・千代田システムテクノロジーズ株式会社
- ・日本シノプシス合同会社
- ・日本ダイレックス株式会社
- ・日本電気株式会社
- ・マカフィー株式会社
- ・横河電機株式会社

産学連携による「共同研究」への取組みを、ご紹介します。

昨年 4月から、  
名古屋工業大学 大学院が 推進し、  
「製造現場の制御システム」を  
「サイバー攻撃から守る」ための  
共同研究、「つるまいプロジェクト」に参加しました。

「LynxSECURE」をベースに、  
「VEC（ベック）」にも加盟し、  
会員企業 各社と 共同研究を 進めています。

慶應義塾大学と、「GISとIoTの融合」で共同研究  
「GIS×IoTプラットフォーム」の共同開発

- ◆建設現場での「i-Construction」(国土交通省が推進)  
GIS(地理情報システム)とIoTシステムのプラットフォームの共同開発
- ◆2017年11月に研究成果を公開

(2017年9月7日リリース)

慶應義塾大学  
SFC研究所



アドソル日進



◆「GIS」と「IoT」の融合  
建設の全プロセスで、  
(測量・設計～施工・管理)  
GIS活用

(2017年9月:当社にて)

27

昨年9月からは、  
慶應義塾大学と  
「GISとIoTの融合」に関する共同研究を開始しました。

労働人口の減少が、顕著な  
建設現場の生産性向上にむけ、

「建設現場で活用できるGIS×IoTプラットフォーム」の  
共同開発を進めています。

昨年11月には、  
東京ミッドタウンで開催された  
「慶應義塾大学のフォーラム」にて、  
研究成果を公開しました。



## 「IoT時代のセキュリティ・フォーラム 2017」 3年連続開催



400名

## ■キーノートスピーチ

- ・米国 Industrial Internet Consortium  
CTO Stephen Mellor 氏
- ・一般社団法人 日本OMG  
代表理事 吉野 晃生 氏

## ■講演

- ・米国 Lynx Software Technologies社  
CEO Gurjot Singh 氏
- ・米国 Nebbiolo Technologies社  
CEO Flavio Bonomi 氏
- ・アドソル日進  
セキュリティ・ソリューション推進部長  
兼 IoTシステム事業部長 片山 健児

主催 アドソル日進株式会社

協賛 WEBROOT JCGA Mitsuiwa RYOYO

日時 2017年10月13日(金) 13:00 ~ 17:30 (開場12:30)

場所 グランドプリンスホテル高輪 (東京都港区高輪3-13-1)

## 展示ブース

同時開催  
ソリューション展示会  
(当社・協賛社様)

## ■個別セッション

- ・アドソル日進
- ・ハイテックシステムエンジニアリング社
- ・ミツイワ社
- ・ウェブルート社
- ・菱洋エレクトロ社

28

10月には、3年連続となる、  
「IoT時代のセキュリティ・フォーラム2017」  
を開催しました。

今回は、米国でIoTを推進する  
「インダストリアル インターネット コンソーシアム」から、  
CTOの「ステファン メラー様」、

また、「元シスコシステム 副社長」で、  
IoT企業を創業された  
「フラビオ ボノーミ様」等に  
講演をいただきました。

400名のお客様をご招待し、  
大変大きな反響を頂きました。



## 「フォーラム・セミナー・展示会」へ積極的に参加

### ◆ CEATEC JAPAN 2017

(ノルディック・セミコンダクター社と共同、  
10/3~4 千葉・幕張メッセ)

### ◆ 第26回地理情報システム学会

(11/2 仙台市)

### ◆ Embedded Technologies 2017

(11/15~27 パシフィコ横浜)

### ◆ 慶應義塾大学SFC

#### Open Research Forum 2017

(慶應義塾大学SFC研究所 鋭研究室と共同  
11/22~23 東京ミッドタウン)



29

提案活動の 強化として、  
各種の フォーラム ・ セミナー ・ 展示会へ 参加し、

当社独自の  
スマート・ソリューションや  
セキュリティ・ソリューション の 訴求と、  
当社ブランドの 向上を  
図って おります。

2018年3月期 第3四半期決算概要

2018年3月期 戦略と取組み

**<ご参考> 当社のソリューション・サービス**

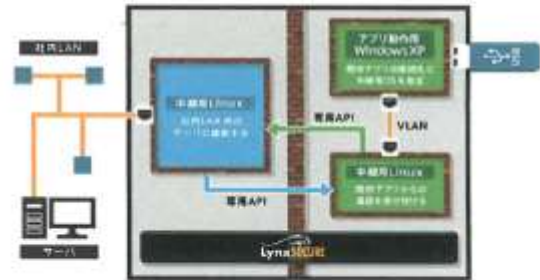
30

以下に、  
当社の、ソリューション や  
様々な 取組みを  
ご紹介します。

## SECURE RESCUE(セキュア・レスキュー)



サポートが切れた「旧OS」対応  
「旧OS延命ソリューション」



2017年5月19日 日経産業新聞 広告掲載

31

旧OSを守る ソリューションとして、  
「 昨年5月 」より、サービス提供を 開始した  
「 セキュア・レスキュー 」です。

サポートが終了した 旧OS は、  
様々な 理由により、いまだに 多く 利用されて おります。

旧OSは、セキュリティ・パッチが提供されず、  
サイバー攻撃への 耐性も 弱く、  
社内ネットワークへの 接続制限等、  
セキュリティ・リスクや、労務負担が、大きな問題と なっています。

そこで、当社は、  
旧OS を「 安全 」に活用 でき、  
社内ネットワークへの 接続を 可能とする  
新たな 延命ソリューション  
「 セキュア・レスキュー 」を 開発、  
サービス提供を 開始しました。

## 安心のWEBアクセス、感染データの無害化！

新型ウイルスに対応！  
メールや外部ファイルを無害化する鉄壁システム。

ウイルス感染の危険性

ウェブ閲覧  
ファイルのダウンロード

添付File

外部デバイス

特徴1  
ウイルスの  
伝染を防止！

特徴2  
未知のウイルス  
を防止！

特徴3  
し合から  
感染可能！

**完全無害化！**

安心	安全	不要
安心して、 添付ファイルを オープンできる	安全なファイル- データを 社内共有できる	システムの アップデートは 不要



業界初！

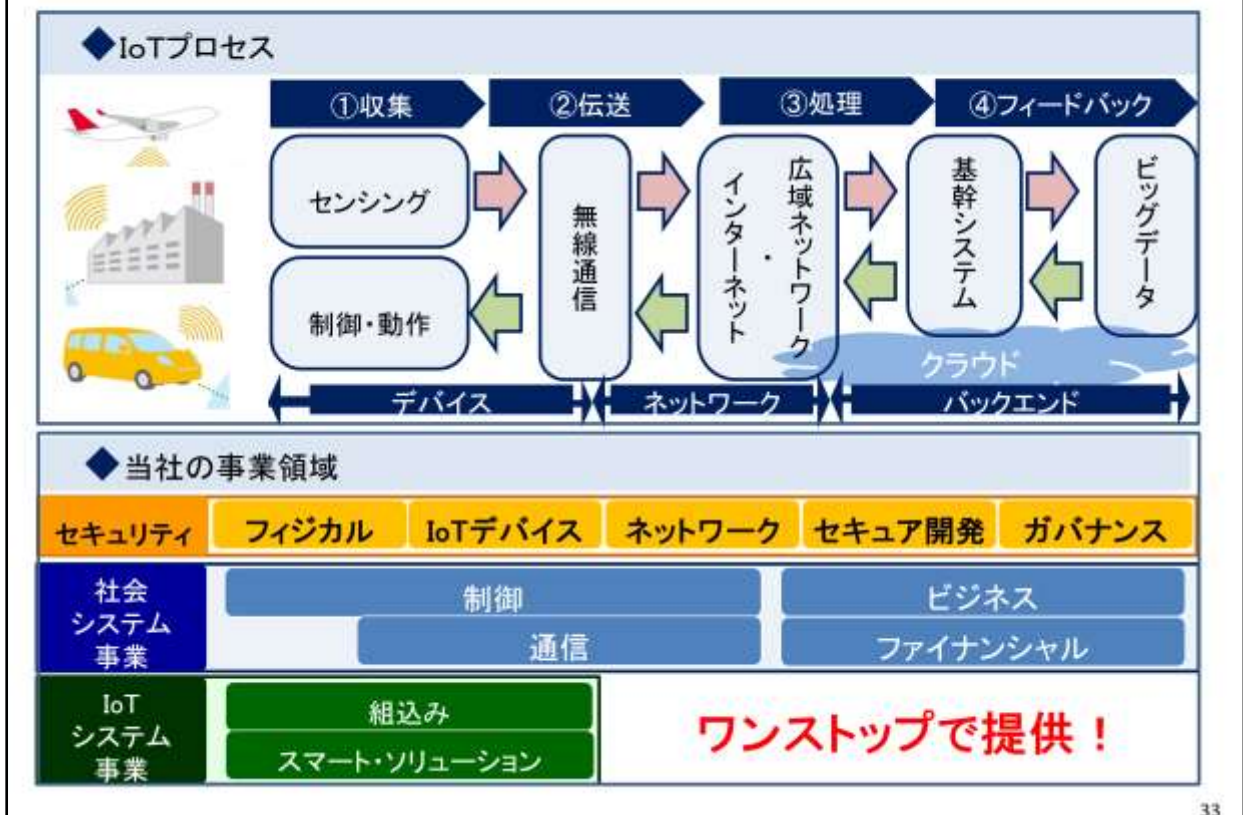
- ◆ ウイルス感染の危険性を除去・無害化！
- ◆ ウイルスを「隔離！」「遮断！」
- ◆ アンチウイルスソフトとの併用可能

32

また、「LynxSECURE」の最大の特徴である「隔離」と「遮断」を用いて、ビジネス・ユーザー向けのソリューション「セキュア・ボーク」を独自開発し、顧客提案を開始しております。

インターネットや、外部メモリー等から侵入する、ウイルス等を遮断し、ユーザーが安心して利用できるよう「必要なデータを無害化するソリューション」です。





この図の上段は、IoTシステムにおける「プロセス」を示しております。

多くの「デバイス」から、情報を収集し、「無線通信」で「ネットワーク」を経由し、バックエンドである、企業の「基幹システム」に蓄積し「ビッグデータ」として分析、その分析した情報をもとに、「デバイス」に対して処理命令を行う、一連の「IoTプロセス」があります。

当社は、この「全IoTプロセス」において、事業展開を行っており、長年培った技術力と、ノウハウをベースにお客様に、「ワンストップ」でソリューションをご提供できる、強みがあります。



## 地理情報で、防災等様々な領域でサービス提供

配送ルート検索  
ソリューション  
GIS Total Solution

SUNMAP<sup>®</sup> for VRP

「効率的な配送ルート計画」で複数拠点・複数車両の経路最適化。

SUN MAP

SUNMAP<sup>®</sup> for VRPの主な機能と利用例SUNMAP<sup>®</sup> for VRPソリューションフロー

34

また、当社は「IoT」と「GIS」の融合により、スマート社会の実現に取組んでおります。

GISソリューションとして、地理情報を活用した当社オリジナル・ソリューション: SUNMAPシリーズを展開しております。

現在、「SUNMAP」を活用し、防災等の、社会インフラ関連や業務効率化に向けたサービス提供を行っております。導入事例としまして、「配送業様」では、「SUNMAP for VRP」をご利用いただき、「20%」の業務効率に繋がりました。

GISソリューションは、世界のトップを走る「ESRI社」と、連携してサービス提供しています。

アドソル日進独自の電界通信技術【特許取得！】



- ◆フードディフェンス対策として、食品工場への提供
- ◆オフィスのセキュリティ対策として入退場管理システムとして提供
- ◆病院の検査室に適用することで、無菌室での入退室管理が容易に行えます。

また、「フィジカル・セキュリティ」として、  
当社が、「独自特許」を持つ  
「電界通信技術」を使った  
ソリューションの提供に注力しております。

この電界通信「タッチタグ」は、現在、  
「フードディフェンス対策」として  
「食品工場」での採用が続いております。

又、「アライアンス企業様」と、  
様々な分野での、活用提案を推進しております。

◆「米国 最先端R&D」、「中国:2拠点・ベトナム:3拠点 開発」



36

「グローバル体制」について、ご説明します。

情報システム開発では、  
 首都圏と、地方拠点、中国・ベトナムを結んだ、  
 分散型の開発体制を充実させ、  
 「技術者不足の解消」と、「コスト競争力」を高めております。

「中国2社」、「ベトナム3社」による  
 海外オフショア開発体制で、サービス提供しております。

IoT・セキュリティでは、  
 本社のセキュリティラボと、  
 子会社の「サンノゼR&Dセンター」を結び、  
 米国Lynx社と共に、国内メーカー様の、ジャパン品質の  
 要求にしっかりと応え、  
 IoTセキュリティ・ビジネスの  
 拡充を図ってまいります。



## 持帰り開発案件増加に伴い、本社をリニューアル

◆開発ルーム・セミナールームを増設、開発力・提案力を強化



総合受付



タッチタグデモコーナー



開発エリア



セミナールーム

○総合受付ロビーでは、当社独自特許「電界通信」を活用した入退場デモ・システムを設置

○開発ルームは、ダブルセキュリティシステムで開発プロジェクトの「安全」「安心」を確保！！

37

「昨年 5月」には、東京本社を リニューアルしました。

持帰り開発 専用の「開発ルーム」を大幅増設し、開発環境の 整備 ・ 開発力の強化を 図りました。

また、提案力の 強化 に向け、「セミナールーム」も 新たに設置しました。

当社主催の、独自セミナーに 加え、お客様や、パートナー企業様との 共同セミナー 等も積極的に 開催したいと 考えています。

◆企業紹介 ～IoTで未来を拓く総合エンジニアリング企業～



◆セキュリティ・ソリューション：LynxSECURE



◆フードディフェンスに最適な電界通信タッチタグ®ハンズフリー認証



◆「特許！電界通信（人体通信）タッチタグ®」コンセプト



◆当社のウェブサイト（[www.adniss.jp](http://www.adniss.jp)）よりご覧ください。◆YouTubeからもご覧いただけます。（[www.youtube.com](http://www.youtube.com)）

当社は、「中期経営計画 Vision2020」をはじめ  
製品・サービスのビデオを作成しております。

当社のホームページで ご視聴可能ですので、  
ご覧ください。

<http://www.adniss.jp/>

ユーチューブでも ご覧いただけます。



本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。又、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

又、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

尚、本資料に記載されている会社名及び商品名は、各社の商標又は登録商標です。

■お問合せ先



URL <http://www.adniss.jp/>

【本 社】〒108-0075 東京都港区港南4-1-8 リバーージュ品川10階

TEL:03-5796-3131

経営管理部 広報・IR担当 TEL:03-5796-3261 メール:ir@adniss.jp

以上で、  
アドソル日進株式会社の  
「2018年3月期 第3四半期決算」のご説明を  
終わらせて頂きます。

ありがとうございました。